DALTON X HIGH SCHOOL

2027

世界を変える、変数Xになる。

ドルトンX学園 学校案内

Contents

2027年4月開校予定 ※認可申請中

ドルトンX学園について

ドルトンX学園高校の3年間 04
キーコンセプト 06
理事長／校長メッセージ 07
世界を変える学びを、ここから 08

ドルトンX学園での学び

教育理念 10
ドルトンプラン 11
飛び出せ、地域へ！現地で深めるリアルな探究 14
基礎学力を身につけるための学び 18
国際カリキュラム 21
一人ひとりの未来へキャリア・進路 22

ドルトンX学園での生活

キャンパス・寮・地域拠点 24
ドルトンX学園での1日 26

入試・学費 28
よくあるご質問 30

自分のミライを切り拓く

ドルトンX学園高校 の3年間

国内外の多様な拠点で学び暮らす3年間。挑戦と失敗を繰り返し、現地の破天荒な人々と出会う中で、常識を揺さぶる経験を重ねます。自ら問い、選び、未来を切り拓き、実現に向け、学び続ける力を育みます。

1年次

自ら学び、共に成長する一年

2つのキャンパスに滞在しながら、学びも暮らしも自分ごととして捉える1年次。教科の学びを深め、探究へつながる基礎を築くとともに、寮生活の中で多様な人と関わり、協働する力を育てます。自ら学び、共に成長するための第一歩です。

2年次

常識を揺さぶる体験と学び

国内外の多様な拠点で暮らし、学ぶ2年次。午前はオンラインで学び、午後は地域ならではの実践的なフィールドワークに取り組みます。多様な価値観に触れ、挑戦を重ねながら、自ら選び、社会とつながり、探究を深めていきます。



3年次

自分らしく学び、ミライを選ぶ

一関と東京、2つのキャンパスで学びを深める3年次。これまでの探究成果をもとに、自分らしい進路を描き、未来を選びます。自らの意志で進路を決め、その実現に向けて主体的に学び続けていきます。



WHERE

一関キャンパスと東京キャンパスに滞在



- 2つのキャンパスにそれぞれ1学期（予定）滞在します
- 寮は2〜3名で1室利用します

国内外の拠点に約3カ月、数カ所滞在



- 自分で滞在拠点や探究テーマを選択します。1拠点に3カ月以上滞在することも可能です
  ※ 実施期間：1年次3学期〜2年次3学期

一関キャンパスと東京キャンパスで深める学び



- 2つのキャンパスにそれぞれ1学期（予定）滞在します

WHAT

学びと探究の基盤づくり



- 知識や思考力・判断力・表現力、探究力の基盤をつくります
- チームワークやリーダーシップの基盤づくり

リアルな探究、自在な学習



- 午前中はオンライン学習、午後は現地実践プロジェクト
- 国内外で現地ならではの地域課題に取り組みます

探究の成果をもとに、自分らしい進路を描く



- これまでの学びを踏まえて、自分のキャリアを選択します
- 自分のキャリアの実現に向けて学習に取り組みます

GOAL












𝒳（エックス）は、
何者にもなれる変数。
社会を変える変数。

予測が難しい、変わり続けるこの世界で
世界を変える変数になるためには、新しい学びのカタチが必要です。

自らの足で探究し、
破天荒に出会い、
フロンティアを共創する。

教室も、国境も越えて、社会や世界とつながり、
失敗を恐れず挑戦し、
一人だけでは生み出せない新たな価値を仲間とともに創っていく。

あなたの好奇心ひとつを種にして、世界を変える変数になろう。

Key Concept

探究
地域や国を越え、五感で社会課題と向き合い、挑戦を重ねます。

出会い
これまでの常識や思い込みを揺さぶる、多様な人や文化、価値観と出会います。

共創
一人では生み出せない新たな価値を共創し、未知のフロンティアを切り拓きます。

Message

好奇心を原動力に、
あなたの挑戦が学校をつくる

ドルトンX学園高等学校は、自分の身の回りのことに興味を持ち、社会課題を自分ごととして受け止められる皆さん、新しいことに挑戦するのが好きで失敗を怖がらない皆さん、そして好奇心を持っている、あるいは持ちたいと思っている皆さんを歓迎します。
2027年4月に開校する本校（認可申請中）では、あらゆる取り組みが「挑戦」そのものです。自らの好奇心を満たしつつ、私たちと一緒に楽しみながら、新しい学校を創りあげていく。そんな皆さんに、全国から集まってほしいと願っています。
校名に冠した「X」には、場所に縛られない学び、多様な価値観をかけ合わせるクロスボーダー、そして一人ひとりが社会を変えうる変数という、三つの想いが込められています。ドルトンX学園で学んだ皆さんが、世の中にインパクトを与える「変数X」として活躍できるよう、私たちは全力で応援します。



学校法人河合塾学園 理事長
河合 英樹



ドルトンX学園高等学校（認可申請中）校長予定者
新設高校開校準備室長
古屋 輝周

自ら一歩を踏み出すエネルギーが
未来を動かす

ドルトンX学園高等学校は、生徒一人ひとりが自分なりの挑戦をたくさん重ねていく学校です。自らの好奇心と行動力でさまざまな世の中の課題に各地域で向き合い、うまくいくこともうまくいかないことも経験することで、広く知識を勉強し、チームワークを体得しリーダーシップを学びます。その挑戦の中で情熱的な人に出会い深く議論し、誰も答えを持っていない課題にたくさん出会います。美しい景色にも美味しい食べ物にもたくさん出会うでしょう。さまざまな地域のさまざまな人々の幸せの形にも多く触れます。だから考えるんです、自分は何をしたいのか、と。将来、世界を変える起業家も、新薬を開発する研究者も、国際的課題を解決する外交官も、人々の心を癒すアートを創作する芸術家も、地元の商店街を活性化させる市長も、本校から出てくるかもしれません。でも、華々しくなくていいんです。自分のやりたいことを見つめる深い経験が、脳と体の奥底に溜まるエネルギーとなって、長い人生において主体的に幸せをつかみとる一歩を踏み出していく、そんな高校で皆さんをお待ちしています。

世界を変える学びを、ここから

これからの社会に必要なのは、知識だけではありません。
自ら問い、挑戦し、他者と協働しながら未来を切り拓く力です。
河合塾グループはその力を育てるために、学びを変える挑戦を始めました。

変わる社会、変わる学び

教育環境の変化と学びの変化

これまでの学校教育では、知識を身につけ、正解を導き出す力が重視されてきました。もちろん、その力は今も大切です。しかし、知識を覚えてアウトプットするだけでは、変化の激しいこれからの社会を生き抜くことはできません。テクノロジーの進化やグローバル化、価値観の多様化が進む中で、自ら問いを立て、他者と協働しながら課題を解決していく力が求められています。知識を実社会の中で活かし、挑戦と失敗を繰り返しながら学び続けること。その経験こそが、未来を切り拓く本当の学びにつながっていく、と考えています。



偏差値だけでは測れない力を育む

大学進学をめざすうえで、学力や偏差値は大切な指標の一つです。しかし、これからの社会で求められるのは、それだけではありません。多様な人々と協働する力、自ら問いを立て行動する力、失敗を恐れず挑戦する力、そして異なる価値観を理解しながら社会と関わる力。こうした非認知能力は、テストの点数だけでは測ることができません。河合塾グループは長年にわたり学力向上に取り組む一方で、これからの時代に必要な資質・能力について研究を重ねてきました。その中で注目したのが非認知能力です。予測困難な時代だからこそ、知識の習得に加え、自ら考え、他者と協働し、新たな価値を生み出す力を育むことが重要だと考えています。



ドルトンプラン ー学習者中心教育ー

河合塾グループが注目したのは、アメリカの教育家ヘレン・パーカストが提唱した、生徒一人ひとりが自ら学びを進めるドルトンプランの考え方です。偏差値だけでは測れない力を育てるために、自ら問い、挑戦し、失敗から学ぶ学びを重視します。こうした主体的な学びが、これからの社会を生きる力につながると考えています。

ドルトンプランの詳細はP11へ

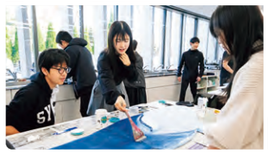
教育のあり方を変える挑戦

ドルトン東京学園の挑戦

ドルトン東京学園中等部・高等部では、「自由」と「協働」を原理とするドルトンプランのもと、学習者中心の教育に挑戦してきました。生徒はアサインメントやラボラトリーを通して主体的に学び、自ら問いを立て、探究に取り組んでいます。その成果として見えてきたのが、非認知能力の大きな伸長です。共感・傾聴力や地球市民性、失敗から学ぶ力の成長が確認され、その背景には教室を飛び出して本質に向き合う「探究」と、実践を重ねる「挑戦」がありました。ドルトンX学園高等学校は、この成果をさらに発展させるために、2027年4月開校します。

※ 2027年4月開校予定（認可申請中）

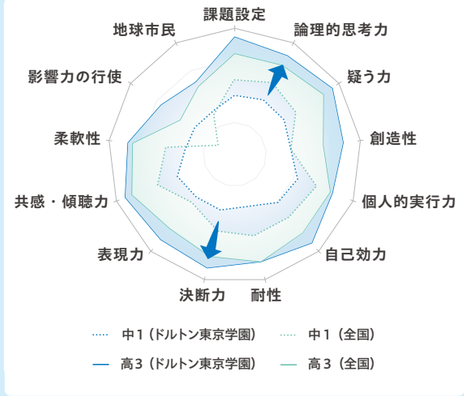






学力だけじゃない、大きく伸びた力

ドルトン東京学園では、6年間の学びを通じて、論理的思考力や創造性、自己効力感、共感・傾聴力といった非認知能力が、入学時から大きく伸び、全国の高校3年生平均を上回る成果が確認されています。特に、多様な他者と関わる中で培われる共感・傾聴力や、失敗から学び挑戦を重ねる姿勢が、これらの力の伸長に大きく寄与していることがデータからわかっています。さらに、非認知能力が高まった生徒ほど、内発的な動機づけを持って学びに向かう傾向があり、その結果、教科学力の伸長にもつながっていると考えています。



社会とつながる学びへ

河合塾グループは、これからの学びは教室の中だけで完結するものではないと考えています。地域や世界に出て、リアルな社会課題に向き合い、多様な価値観を持つ人々と関わる中でこそ、本質的な学びが生まれます。五感で本質に向き合う探究や、挑戦と失敗を繰り返す経験を通じて、自分の価値観や人生観が揺さぶられる。その積み重ねが、自らの進むべき道を見出す力につながります。さらに、仲間や地域の人々と共創することで、一人では生み出せない新たな価値を創り出していく。ドルトンX学園高等学校は、こうした学びを実現するための新たな挑戦です。



Philosophy

教育理念

汝自らを求めよ

古代ギリシアのデルフォイ神殿に、『汝自らを知れ』という言葉が刻まれています。
ドルトンX学園に集うすべての生徒が
「ありたい自分、あるべき自分を究め、学び続ける人」となるよう
私たちは支援します。

めざす学校像

- 『学習者中心教育』の実現に取り組む学校
- 活発な探究・挑戦を奨励し、楽しく学びを追究する学校
- 多様性を尊重し、グローバルな視野を育む学校
- 個性が最大限尊重され、活気があり、思いやりに満ちた環境を提供する学校

育てたい生徒像

- 主体的に学び、探究・挑戦し続ける生徒
- 多様性を理解し、他者と協働する生徒
- 自らの意志で積極的に新しい価値を創造し、広く社会に貢献する生徒

Method

「学ぶ楽しさ」から「つくる喜び」を引き出す、学習者中心の教育メソッド

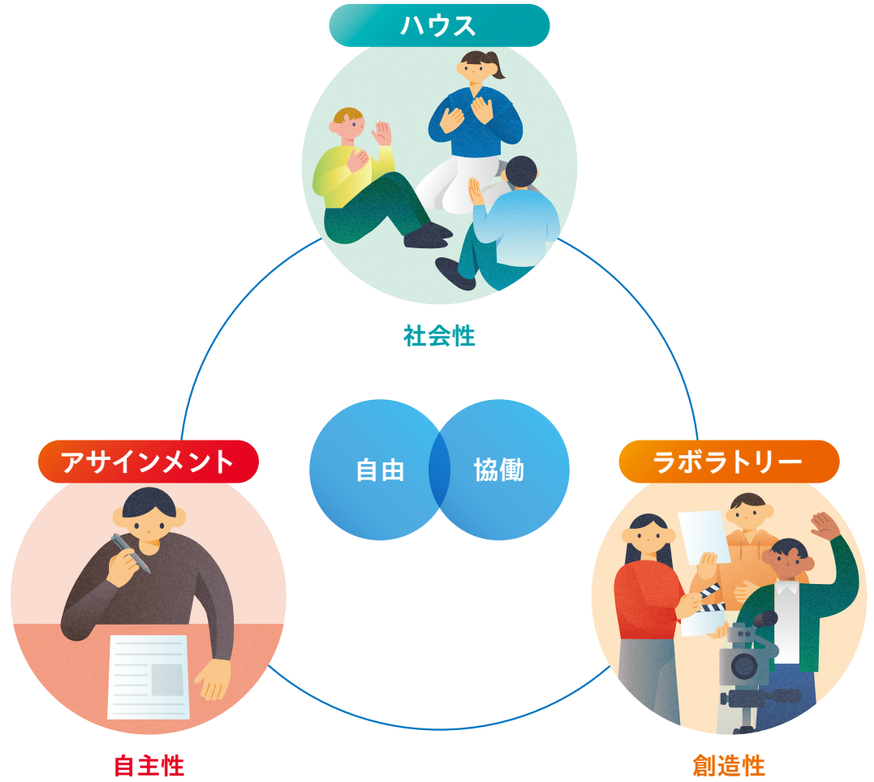
本校は、「生徒が主役」であることを最も重視しています。授業で基礎知識を学び、学習内容の定着を図ることはもちろん重要です。しかし、何より大切なことは、生徒の内面から「これが学びたい」という意欲が湧き出ることです。教員の役割は、足りない知識や情報を補い、道に迷ったときにはヒントを示すこと、そして生徒一人ひとりの創造性が広がるように、全力で学びを支援することです。
ドルトンプランを通じて生徒たちは、自ら考え選択する力、興味・関心を高める力、集中力と持続力を身につけていきます。主体的に学び、興味・関心のあることと真剣に向き合い、探究・挑戦し続ける人を育てる。そのためのメソッドが、ドルトンプランの「学習者中心の教育」です。



DALTON PLAN

ドルトンプランに基づく教育

ドルトンプランは、今からおよそ100年前に米国の教育家ヘレン・パーカストが、当時多くの学校で行われていた詰め込み型の教育に対する問題意識から提唱した、学習者中心の教育メソッドです。「自由」と「協働」の2つの原理に基づく「ハウス」「ラボラトリー」「アサインメント」を軸とし、一人ひとりの知的な興味や旺盛な探究心を育て、個人の能力を最大限に引き出すことを大きな特徴としています。パーカストはその生涯をかけて、一人ひとりの子どもに寄り添い、成長を観察し続けると同時に研究を続け、実践から形づくられた教育法に心理学・哲学・教育学の学問的理論を取り入れ、ドルトンプランを作りました。本校はドルトンプランを現在の日本の教育に適用し、実践します。



2つの原理

自由
一人ひとりの興味を出発点に、自主性と創造性を育む

協働
さまざまな人々との交流を通じて、社会性と協調性を身につける

3つの柱

ハウス
高1～高3までの異学年で構成される社会性を育むコミュニティです

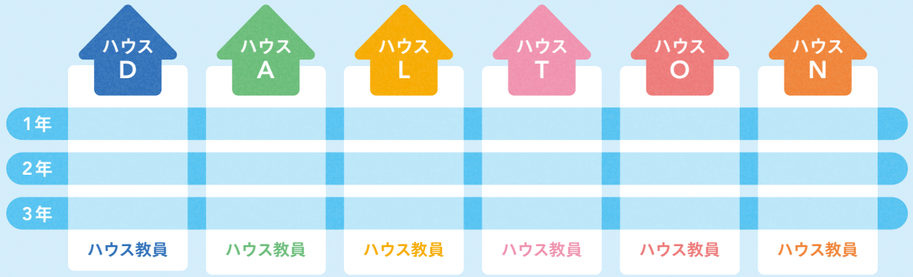
ラボラトリー
自由に学ぶマインドやスキルを身につけて、学びを広げ、深めます

アサインメント
生徒の自主性と計画性を伸ばす「学びの羅針盤」です

ハウス　学年を越えてつながる「小さなコミュニティ」

下級生は上級生の姿をロールモデルとしてとらえることで、今後の自分の姿に見通しを持つことができます。

ハウスは学年横断のコミュニティです。ホームクラスや学校行事、先輩・後輩の交流のベースになります。



ショートハウス・ロングハウス

昼休みや夕方に行う活動をショートハウス、週1回行う活動をロングハウスと言います。ロングハウスの活動内容も生徒が考えます。

ハウス教員からのメッセージ



佐藤 貴明先生

ハウスとは、異学年で構成されるグループです。年齢の枠組みを越えた繋がりの場で、どこか家族のようなやすらぎや温かみのある居場所です。学校生活での助け合いはもちろん、行事の運営を一緒に行う学びのコミュニティでもあります。

ラボラトリー　教室を越えて学びを深める「探究の場」

教室の中だけでは得られない学びを探究する場です。自ら問いを立て、調べ、対話し、実践することを通して、知識を深めるだけでなく、新たな価値を創造する力を育みます。

1年次	現地実践プロジェクトに向けた準備	1年次は、2年次の現地実践プロジェクトに向けて、自らの足で探究するための基礎を築く期間です。課題設定力や情報収集・分析力、問いを深める力などの探究基礎力を養うとともに、一人ひとりが自分らしさを発揮しながら、多様な人と対話し、仲間と協働して新たな価値を生み出すリーダーシップを育みます。一関キャンパスや東京キャンパスでの学びや寮生活を通して、未知の課題に挑戦する姿勢と実践力を身につけます。
2年次	現地実践プロジェクト	1年次に培った探究基礎力とリーダーシップを活かし、国内外を移動しながら、地域や企業、大学、NPOなど多様な人々との協働を通して、実社会の課題に挑戦します。例えば、沖縄でのサンゴ保全活動、けいはんな学研都市でのAI・ロボティクス研究、インドで環境問題に取り組むNPOとの協働など、学びの舞台は教室の外へと広がります。現場の課題のリアルに触れ、試行錯誤を重ねながら新たな価値の創造に挑戦し、自らの問いや将来の進路を深めていきます。
3年次	成果を発信し、進路を探究する	これまでの経験を振り返りながら、自らの成長や価値観の変化を言語化し、自身の問いをさらに深化させて、その成果を「学びの成果発表会」で発表します。さらに、自らの関心や探究テーマを起点に、大学や学部、研究室、学問分野について探究し、一人ひとりが描く未来の実現に向けて、大学進学や海外大学への進学、起業など次のステージへの準備を進めます。

アサインメント　自主性と計画性を伸ばす「学びの羅針盤」

アサインメントにより、生徒自身が学びを見通し、主体的かつ計画的に学習を進めることができるようになります。
また、一人ひとりが自分のペースで学習に取り組みます。この積み重ねが、自律的な学習者としての成長につながります。

● アサインメントの主な内容

❶ 学習目的を明示

なぜその単元を学ぶ必要があるのか、学ぶとどのようなよさがあるのか。実感できる題材を提供し、興味を持って取り組めるよう動機付けします。

❷ 学習目標を明示

単元やテーマを通して身につくスキルと到達目標を具体的に示します。授業中の確認テストや提出物など、どのように評価するかをあらかじめ明示します。

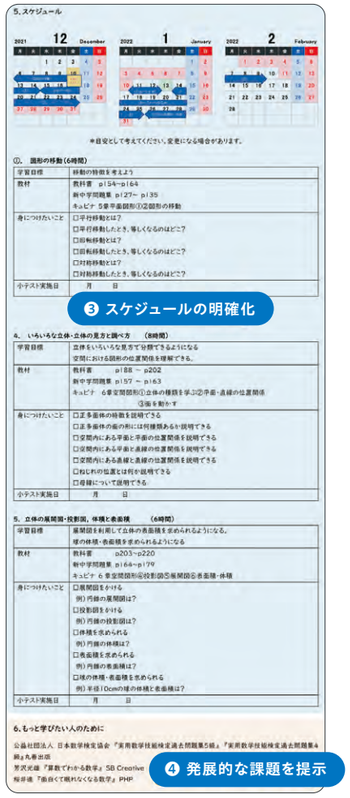
❸ スケジュールの明確化

あらかじめ学習内容や予定を提示することで、生徒がいつまでに、何ができるようになるのかを把握しやすくします。そうすることで、自分の学びを設計しやすくなります。

❹ 発展的な課題を提示

さらに学習を進めたい生徒には、発展的な内容や参考文献を提示します。また、学んだことを他の人に発信したり、共有したりする機会を多く設けることで、学びをさらに深めます。





ドルトンX学園での成績は？

本校では、生徒が取り組んだことやできるようになったこと、その過程を評価することを大切にしています。また、他の生徒と比較するのではなく、アサインメントごとに設定した基準に基づいて到達度を測り、生徒が以前と比べてどのように成長したかを評価します。成績評価では、発表やレポート、作品などの成果物だけでなく、それらをつくり上げる過程や取り組む姿勢も重視します。レポートを課したり、小テスト・単元テスト・実技テストなどを行うことがあります。



新しい自分に出会う学び

飛び出せ、地域へ！現 地で深めるリアルな探究

1年次3学期から、生徒一人ひとりが、地域に根ざし世界へとつながるテーマについて現地実践プロジェクトを行います。
「調べて発表」だけで終わらせず、自ら問いを立て、現地ならではの実践的で探究的な活動を行います。



デジタルで社会はどう変わる？行政と社会のリアルを追いかける

世界屈指の電子国家エストニアで、最先端のデジタル社会を学び、日本でどう活かせるか自らの視点で探究します。

きれいな水を未来に残す。科学的アプローチで汚染の解決に挑む！

現地NPOスタッフの方と一緒に河川の水質改善に挑んで、自分が調査した水質分析をもとに解決策を実践します。

よりよい未来をつくりたい。テクノロジーの力で社会をハック

世界屈指の技術を持つインドで、スマートシティによる都市課題の解決を学び、渋滞などの改善に挑戦します。

沖縄の美しいサンゴを守りたい。海に潜って学ぶ、保全への最前線

サンゴが直面する課題を学び、実際に海に潜って植え付けを行いながら、その成長を分析してサンゴ礁の保全活動につなげます。





ミュージカルが生まれる現場で学ぶ3カ月

ミュージカル制作の現場に関わりながら、舞台芸術や地域とのつながりについて探究します。



人と地域をつなぐプロジェクトに挑戦

地域の人たちと一緒に、地域の行事やイベントの企画を通して、人が集うまちづくりを探究します。

現地実践プロジェクト

1年次3学期から2年次2学期まで、国内外の各拠点に約3カ月間、数カ所滞在し、地域の未来、環境、テクノロジー、アートなど、地域に根ざし世界へとつながるテーマに挑みます。実験や実証を重ねながら、その地域の未来を考えて活動している地域の人々とともに課題解決の実践に取り組みます。





地域拠点滞在時の学び

午前中はオンラインで教科学習を中心に学び、午後はその地域ならではのフィールドワークやプロジェクト活動に取り組みます。

午前



オンラインでの学び

午後



現地実践プロジェクト

自分で地域を選び、テーマを選ぶ1年間

国内外の拠点に約3カ月滞在し、数カ所を舞台に、多様な地域で多様な人々と出会いながら学びを深めていきます。
学びを深めるために同じ拠点に連続して滞在することも可能です。

	1月～3月	4月～7月	9月～12月	1月～3月
Aさん	人に役立つロボティクス研究 けいはんな学研都市拠点		テクノロジーで社会課題の解決をめざす インド拠点	これまでの探究活動のまとめ 一関キャンパス
Bさん	サッカーで街のミライをデザインする 徳島拠点	伝統舞踊を次の世代へ 沖縄拠点	技術でウェルビーイングを実現 けいはんな学研都市拠点	これまでの探究活動のまとめ 一関キャンパス

※テーマと拠点の組み合わせは例です。　※ 地域拠点は変更の可能性があります。

Theme

好奇心が動き出す探究テーマ

生徒は探究テーマを自ら選択し、地域や社会とつながる各拠点で多角的に課題を捉え、視野を広げます。
熱意ある大人や専門家との出会いでこれまでの常識を揺さぶられ、新たな問いから、自分だけの探究を見つけていきます。

地域の未来をもっと面白くしたい

- 観光×自然×地域一共生する観光とは
  沖縄拠点
- サッカーで街のミライをデザインする
  徳島拠点
- 高校生が考える市街地活性化策
  徳島拠点



未来を動かすテクノロジーをつくりたい

- 人に役立つロボティクス研究
  けいはんな学研都市拠点
- ウェルビーイング実現のための共創
  けいはんな学研都市拠点
- テクノロジーで社会課題の解決をめざす
  インド拠点



地域や地球の環境をよくしたい

- サンゴ礁の保全・研究
  沖縄拠点
- 科学的アプローチで水質汚染を改善
  インド拠点



アートで地域や世界とつながりたい

- 伝統舞踊を次の世代へ
  沖縄拠点
- ミュージカルで世界とつながる
  徳島拠点



地域と挑む、未来をつくる学び

各地で出会うのは、その土地に根を張り、未来をつくろうとする人々です。ともに過ごし、関係を築く中で、地域は単なる学びの場を超えた存在になります。人とのつながりが、学びに持続的な意味と広がりを与えていきます。

Interview 01



岩手拠点

株式会社 Next IWATE

代表取締役CEO
上野 裕太郎さん

一関において、企業・自治体・教育機関と連携し、若者が地域課題に向き合い価値を実装する地域共創に取り組んでいます。地域のリアルな現場を舞台に、自ら問いを立て行動する探究への挑戦を通じて、皆さんが自らの可能性を広げていくことを期待しています。共に未来を切り拓きましょう!







Interview 02



徳島拠点

株式会社UZU ARTS

代表取締役CEO
高橋 真冬さん(右)

専務取締役COO
和田 一詩さん(左)

私たちは、若者と地域をつなぐ活動を通して、多くの挑戦や成長の瞬間に立ち会ってきました。探究活動では、自ら問いを立て行動することが大切です。地域には教室だけでは学べない本物の学びがあります。ぜひ地域の人や仕事、課題と出会いながら、自分らしい挑戦を楽しんでください。





Study Base

各拠点の現地実践プロジェクト事例

現地実践プロジェクトは地域の特性や出会いにより多様に形づくられます。ここでは想定される活動例をご紹介します。
実際の学びは、生徒の関心や現場での出会いによって、柔軟にそして発展的に広がっていきます。

Case 01

サイエンスシティから広がる学び

けいはんな学研都市を拠点に、人工知能やロボティクスが実社会でどのように活用されているかを具体的に探究します。例えば、高齢者支援施設での見守りAIや商業施設での案内ロボットの運用事例をもとに、人の行動データや利用状況を収集・分析し、「どのような条件で使いやすくなるのか」「人に受け入れられる技術とは何か」を検討します。さらに、その考察をもとに具体的な課題解決に取り組むとともに、AI・ロボティクスがもたらす未来の生活を構想することにも挑戦します。

けいはんな学研都市(正式名称:関西文化学術研究都市)







Case 02

多様性の国インドで社会課題に取り組む

インドを拠点に、急速な経済成長の中で顕在化する社会課題とテクノロジーの可能性を探究します。例えば、水質汚染などの課題に対し、現地NPOや高校生と協働しながら、現状把握や原因の調査を行い、解決策を検討します。あわせて、IT分野で発展するインドの技術や発想に触れ、日本の知見と掛け合わせることで、実現可能性のあるアプローチを構想します。また、現地インターナショナルスクールの寮で生活し、多様な文化や価値観に触れる経験を通して、課題を自分ごととして捉え、社会に働きかける視点を育てていきます。

インド







Case 03

芸術・スポーツ・地域をつなぐプロジェクト

徳島県を拠点に、芸術・スポーツ・地域活性化を横断した探究に取り組みます。例えば、ミュージカル制作に挑戦し、ダンスや演技に加え、舞台設営や運営に関わり、表現を多角的に学びます。また、商店街を対象に、空き店舗の活用やDX拠点化などを地域とともに検討します。徳島ヴォルティスと連携したプロジェクトでは、来場動線や交通手段の検討、環境配慮型の観戦スタイルの提案などにも挑戦。大学や企業、プロスポーツチームと協働して、文化と産業の両面から地域の持続可能な未来を構想していきます。

徳島県







基礎学力を身につけるための学び

一関や東京キャンパスだけでなく、国内や海外の多様な地域拠点をつなぎ、
対面とオンラインで学びを展開します。
教員や仲間とリアルタイムで学び合いながら、一人ひとりの主体的な学びを支えます。

POINT1 さまざまな場所から参加

生徒は、一関・東京キャンパスや地域拠点から授業に参加します。教員も国内外の拠点から授業を行い、場所を越えて学び合う環境を実現します。

POINT2 25名程度の少人数授業

ホワイトボードや大型電子黒板を使った授業、オンラインによるグループワークなどを行います。オンラインでも一人ひとりの学習を把握し、学びをサポートします。

POINT3 対面でもオンラインでも

一関・東京キャンパスでは対面授業も行います。各拠点をつないだオンライン授業を実施することもあります。課題によっては、個人で映像や資料を視聴しながら学びを深めます。

POINT4 英語ネイティブ教員による授業

グローバルコースでは、1年次から、理科・数学・地理歴史などの科目を英語で学ぶことができます。海外での経験豊富な教員が、最新の話題も取り入れた授業を行います。

対面・オンラインの学び



ドルトンX学園では、全国および海外から採用された教員が授業を担当します。一関・東京キャンパスでは、教員が教室で生徒とともに学びを進め、その他の地域拠点とはオンラインでつながりながら授業を行います。通信制高校でありながら、リアルな教室に集い、対面とオンラインで学びを展開します。
教室には、ホワイトボードや大型電子黒板を設置し、オンラインで参加する教員の教材や資料を大画面で共有できる環境を整備する予定です。生徒は各自の端末を活用し、各地域拠点をつないでディスカッションを行うこともあります。
教員をはじめとするスタッフは、学びの伴走者として生徒一人ひとりに関わり、距離を越えて臨場感ある学びを実現できるよう取り組みます。

ICTツールを活用し、一人ひとりにあった学びをサポート

ドルトンX学園では、対面とオンラインを組み合わせた学びを、一人ひとりに最適な形で実現するために、さまざまなICTツールを活用します。一関・東京キャンパスと各地域拠点をつなぐオンラインシステムをはじめ、グループワークを行うオンライン会議システム、課題提出や学習支援を行うツールなどを導入予定です。また、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、適切にサポートできる環境を整えます。本校ではBYOD(Bring Your Own Device)を採用しており、生徒自身のパソコンを活用して学習を進めます。



カリキュラム

教科学習と探究活動を組み合わせながら、自ら学び、自ら考える力を育むカリキュラムです。

時間割(例)

生徒は自ら時間割を組み立て、自律的な学習者として、学びます。

1年次	月	火	水	木	金
1時間目 8:30~9:15	現代の国語	数学A	英語コミI	数学A	地理総合
2時間目 9:25~10:10	数学I	言語文化	数学I	論理・表現I	公共
3時間目 10:20~11:05	理科基礎	歴史総合	現代の国語	理科基礎	数学I
4時間目 11:15~12:00	英語コミI	歴史総合	理科基礎	理科基礎	英語コミI
12:00~13:00	昼食				
5時間目 13:00~13:45	理科基礎	論理・表現I	理科基礎	言語文化	LH
6時間目 13:55~14:40	ラボ 情報I	保健体育	ラボ	芸術	ラボ
7時間目 14:50~15:35	ラボ 情報I	保健体育	ラボ	家庭基礎	ラボ
15:40~	ショートハウス／掃除				

2年次	月	火	水	木	金
1時間目 8:30~9:15	数学II	英語コミII	数学II	理科/地理歴史	英語コミII
2時間目 9:25~10:10	古典探究	数学II	英語コミII	理科/地理歴史	数学B
3時間目 10:20~11:05	数学B	論理国語	論理国語	論理・表現II	古典探究
4時間目 11:15~12:00	英語コミII	論理・表現II	保健体育	数学II	LH
12:00~13:00	昼食・ショートハウス・掃除				
5時間目 13:00~13:45	ラボ 現地実践プロジェクト				
6時間目 13:55~14:40					
7時間目 14:50~15:35					
15:40~					

3年次	月	火	水	木	金
1時間目 8:30~9:15	英語コミIII	理科/地理歴史	英語コミIII	保健体育	論理・表現III
2時間目 9:25~10:10	数学III	論理・表現III	論理・表現III	保健体育	数学III
3時間目 10:20~11:05	論理国語	数学C	論理国語	英語	古典探究
4時間目 11:15~12:00	理科/地理歴史	英語コミIII	数学III	数学C	LH
12:00~13:00	昼食				
5時間目 13:00~13:45	理科	ラボ			
6時間目 13:55~14:40	理科				
7時間目 14:50~15:35					
15:40~	ショートハウス／掃除				



※ 時間割はイメージです。※ ラボ=ラボラトリー ※ LH=ロングハウス
※ 英語コミ=英語コミュニケーション

教科・科目一覧

3年間で学ぶ教科・科目と単位数の一覧です。2027年度入学者用です。

	国語					地理歴史					公民		数学						理科						保健体育		芸術		外国語						家庭	情報	総合的な探究の時間	学校設定科目
	◎現代の国語	◎言語文化	論理国語	国語表現	古典探究	◎地理総合	地理探究	◎歴史総合	日本史探究	世界史探究	◎公共	政治・経済	◎数学I	数学II	数学III	数学A	数学B	数学C	△物理基礎	物理	△化学基礎	化学	△生物基礎	生物	◎体育	◎保健	△音楽I	△美術I	◎英語コミI	英語コミII	英語コミIII	論理・表現I	論理・表現II	論理・表現III	家庭基礎	◎情報I		
標準単位数	2	2	4	4	4	2	3	2	3	3	2	2	3	4	3	2	2	2	2	4	2	4	2	4	7~8	2	2	2	3	4	4	2	2	2	2	2	3~6	
1年次	2	2				2		2			2		3			2			2		2		2		3	2	●2	●2	3			2			2	2	2	
2年次			○2		○2		○2		○2	○2				○4			○2			○2		○2		1					4			2				8
3年次			○2	○2	○2		○2		○2	○2		○2			○3			○2		○2		○2		3						4			○2		1	

※ ◎は必修履科目、△は必修選択科目、○は自由選択科目、●は必修選択科目であり、必ず1つ選択します。数値は単位数です。 ※ 科目選択には条件があります(継続履修・指定枠内選択)。
※ 卒業には、必履修科目等の履修に加え、自由選択科目を含めて74単位以上の修得が必要です。 ※ 総合的な探究の時間はラボを読み替えます。

3年間のスケジュール

1年次1·2学期および3年次1·2学期に、一関キャンパスと東京キャンパスで学びます。
現地実践プロジェクトは、1年次3学期から2年次2学期にかけて実施し、国内外の多様な地域で実践的な探究活動に取り組みます。



※ 一関キャンパスでの滞在にはスクーリングが含まれます。詳しくは下記の「スクーリング」をご覧ください。

オリエンテーション合宿（一関）／テイクオフ合宿（一関）

オリエンテーション合宿は、新入生全員が入学直後の最初の1週間を一関キャンパスで一緒に過ごし、さまざまなプログラム、アクティビティを通して、生徒同士の親睦を深め関係性を築いていきます。また、これからの3年間を通して取り組む探究や学びの目的·内容について理解を深め、自らの高校生活を主体的に設計するための基盤を形成します。テイクオフ合宿は、地域拠点へ飛び出す前に1年生全員が一関キャンパスに集い、新たな一歩への覚悟と期待を共有します。



学びの成果発表会

2年次までに取り組んできた探究活動や、地域拠点でのプロジェクトの成果を発表する場です。生徒たちは、多様なフィールドでの実践や対話を通して得た経験を振り返り、自らの学びや成長、価値観の変化を整理しながら言語化していきます。また、これまでの挑戦を振り返ることで、自身の興味·関心や将来像を見つめ直し、進路実現に向けた次の一歩を踏み出す機会となります。



スクーリング

本校のスクーリングは、年間の中で設定される一関キャンパス滞在期間において実施される対面授業を指します。加えて、通信制課程の卒業要件となる添削指導や試験についても、計画的にカリキュラムへ組み込み、日常の学習と一体的に進めることで、確実な学力の定着と学習成果の向上を図ります。



国際カリキュラム

グローバルコースでは、探究的な学びをさらに発展させる選択肢として、
社会課題の解決に挑む力を育む「Minerva Baccalaureate（ミネルバ·バカロレア）」と、
専門分野を深く学び海外大学進学につなげる「International A-Level（国際Aレベル）」の
2つのプログラムを設置し、一人ひとりの進路や目標に応じた学びを実現します。

※ グローバルコースの詳細は、本校Webサイトの「グローバルコース案内」（PDF）をご覧ください。

グローバルコース

	ミネルバ·バカロレア（MBacc）プログラム	国際Aレベルプログラム
取得資格	日本の高校卒業資格	
	Minerva Baccalaureate Diploma	International A-Level Qualification
学びの特徴	●教科横断型の学習を通して、知識を転用·活用する力を育成 ●世界の課題をテーマにした探究学習を実践 ●少人数による対話·議論中心の授業 ●批判的思考力·創造力·コミュニケーション力を育成	●世界標準の学力を育む英国式カリキュラム ●興味や進路に応じた専門分野の学習 ●学術的知識と論理的な分析力を養成 ●世界各国の大学が認める国際資格の取得をめざす
科目	言語芸術、社会科学、数学、自然科学、非認知能力を幅広く学習	英語、数学、生物、化学、地理、歴史から興味·進路に応じて3科目を選択し学習
進学先	海外大学、国内大学の国際プログラムなど	

※ 2027年入学生のAレベル最終試験は、2030年5～6月です。

Minerva Baccalaureateとは

Minerva Baccalaureate（MBacc）は、米国ミネルバ大学の教育モデルを設計したミネルバプロジェクトによって開発された高校ディプロマ·プログラムです。「知識を学ぶ」だけでなく、「知識を活用する」ことに学びの重点を置き、言語芸術、社会科学、数学、自然科学などの学問領域を横断的に学びながら、世界が直面するさまざまな課題について探究します。少人数による対話型授業では、生徒同士が議論を重ね、多様な視点から課題を分析し、自ら考え、解決策を創造する力を育みます。批判的思考力や創造力、コミュニケーション力、協働力を高めるとともに、国内外の大学で求められる主体性や探究力、論理的思考力を養います。

MINERVA®
BACCALAUREATE

International A-Levelとは

International A-Levelは、英国をはじめ世界各国の大学で広く認められている国際教育課程です。生徒は興味·関心や進路に応じて専門分野を選択し、大学進学を見据えた高度な学術内容を学びます。少数の科目を深く探究することで、専門知識とともに論理的思考力や分析力を養成します。取得するA-Level資格は世界中の大学で高く評価されており、特に英国をはじめとする海外大学への進学において強みとなります。専門性と学術性を追究する学びを通して、国内外の大学進学とその先のグローバルな活躍を支える確かな基盤を築きます。

※ 授業履修時間が多いため、地域拠点での活動回数等は探究コースとは異なります。



一人ひとりの未来へキャリア・進路

進路はゴールではなく、自分が実現したい未来への通過点です。
探究活動や共創の経験を通してキャリアを描き、一人ひとりにあった進路選択を支援します。
挑戦したいことを形にするための一歩を後押しします。

世界を変える、変数となる生徒へ

社会が大きく変化する時代において、進路は自ら見つけ、切り拓いていくものになっています。3年間にわたる探究活動や多様な人々との出会いを通して、「自分はこれから何に挑みたいのか」を見つけられるよう支援します。河合塾グループの知見も活かしながら、一人ひとりの志を具体的な進路へとつなげていきます。



キャリアから考える進路

どんな未来をつくりたいか、何を学ぶかを考え、自分らしいキャリアを描き、その実現につながる進路を見つけます。

主な進路イメージ

国内の大学（総合型選抜・学校推薦型選抜）

将来やりたいことを明確にした上で大学や学部を選択します。探究活動で培った経験を強みとして、自分が挑戦したいことと大学で学びたい内容を結び付けながら、総合型選抜や学校推薦型選抜による進学をめざします。

国内の大学（一般選抜）

1年次から基礎学力を着実に積み重ねます。探究活動を通して培う論理的思考力や課題解決力とあわせて、教科試験に必要な学力を養います。さらに、小論文や総合問題、面接にも対応できる力を育みます。

海外大学

英語による授業や国際カリキュラム、海外での探究活動を通して、英語力と国際的な視野を育みます。その経験を、出願時のエッセイや面接にも活かしながら、海外大学への進学を支援します。

起業ほか

3年間の学びや活動を通して見つけた目標の実現に向けて、起業や専門学校への進学など、社会への挑戦も含め、多様な進路にも対応し、一人ひとりの歩みを支援します。

河合塾グループと連携した進路サポート

河合塾グループの豊富な入試情報と進路支援の実績を活かし、一人ひとりにあった進路選択と進路実現を支援します。

入試情報の提供

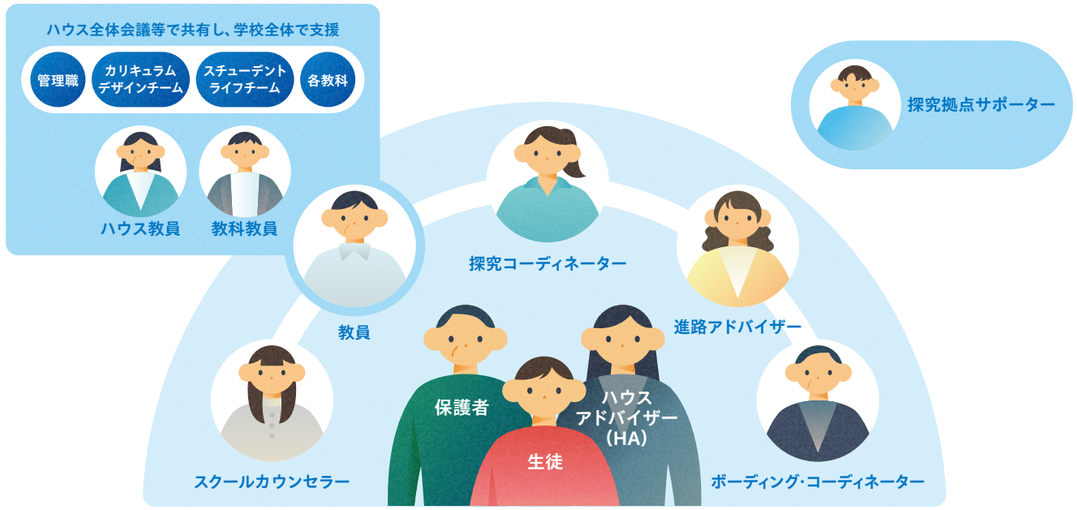
最新の入試情報や、大学入学共通テストや二次試験の出題傾向・内容を分析した情報を提供します。

大学・学部情報の提供

生徒が挑戦したいテーマを学べる大学・学部を選べるよう、各大学の学びや研究内容などの情報を提供します。

3年間を支えるサポート体制

一人ひとりの興味・関心や目標を大切にしながら、多様な進路の実現を支援します。教職員に加え、大学生や社会人、地域の方々など、多様な大人たちが3年間を通して伴走します。



ハウスアドバイザー(HA)
担任として生徒に寄り添う、身近な相談相手です。

ハウス教員
ハウス全体を見守り、学校生活や活動を支えます。

教科教員
対面またはオンラインで教科の学びと探究を支えます。

探究コーディネーター
大学生や社会人が、社会と探究をつなぎます。

進路アドバイザー
大学・学部選びや進路実現を支援します。

探究拠点サポーター
地域と生徒をつなぐパートナーです。

ボーディング・コーディネーター
安心して暮らせるように寮生活を支えます。

スクールカウンセラー
悩みや不安に寄り添う相談相手です。

キャリア形成に向けた各学年の取り組み

	キャリア形成に向けた主な取り組み	主なサポーター
1年次	出会いを通して自己理解を深めるとともに、教科学習や探究活動に必要な知識・スキルを身につけます。	● ハウスアドバイザー ● 教科教員 ● 探究コーディネーター ● ボーディング・コーディネーター
2年次	国内外の地域での現地実践プロジェクトを通して、自分が挑戦したいことや将来の方向性を探ります。	● ハウスアドバイザー ● 教科教員 ● 探究拠点サポーター ● 探究コーディネーター ● ボーディング・コーディネーター
3年次	探究活動の成果や経験を進路につなげながら、自分らしい未来の実現をめざします。	● ハウスアドバイザー ● 教科教員 ● 進路アドバイザー ● 探究コーディネーター ● ボーディング・コーディネーター

総合型選抜

探究活動を振り返りながら、自分の学びや将来の目標を整理し、志望理由書や面接で伝えられるよう支援します。

一般選抜

大学入学共通テストや各大学の個別試験に向けて、教科学力の向上を支援します。小論文や面接などにも対応します。

海外大学進学

大学選択から出願準備までサポートします。探究活動の経験を、自分らしさを伝えるエッセイや面接に活かします。

キャンパス・寮・地域拠点

一関、東京、そして国内外の地域拠点へ。
多様な人々や価値観と出会い、社会のリアルに触れながら探究活動に取り組みます。



ボーディング・コーディネーターが寮の生活をサポート

ボーディング・コーディネーターは、3カ月滞在する寮に常駐する予定です。生活面のサポートや体調不良時の対応に加え、寮でのイベントの企画・運営も行います。生徒一人ひとりに寄り添いながら、安心して成長できる寮生活を支える存在です。

一関キャンパス

一関キャンパスのある岩手県は、これからの日本が向き合う社会課題を先んじて経験している地域です。一関市は教育機関や企業、行政が連携する「知の集積地 いちのせき」として発展を続けています。豊かな自然に囲まれた環境の中で、地域の人々と協働しながら社会のリアルに向き合う探究活動に取り組みます。



住所

〒029-3207 岩手県一関市花泉町油島字上築道43-1

アクセス

JR東北本線油島駅



東京キャンパス (TOKYO NTT BASE)

東京キャンパスは、NTT東日本株式会社が運営するNTT中央研修センタ内にあります。施設内には、地域循環型社会の実現に向けた実証フィールド「e-City Labo」があり、最先端の技術や社会課題に触れながら学ぶことができます。姉妹校であるドルトン東京学園にも近く、緑豊かな環境の中で学びます。



住所

〒182-0004 東京都調布市入間町1-44

アクセス

小田急線　新宿駅より成城学園前駅下車、成城学園前駅よりバス約6分
京王線　新宿駅よりつつじヶ丘駅下車、つつじヶ丘駅よりバス約12分



一関キャンパス寮

一関キャンパスからスクールバスで約5分の場所にある寮です。男子寮・女子寮に分かれており、各部屋にはバス・トイレを完備しています。3DKの居室を2〜3名で利用し、一人ひとりの個室を確保しながら共同生活を送ります。



※ 写真はイメージです。

東京キャンパス寮

NTT中央研修センタの宿泊棟内にあり、教室から徒歩約3分の場所にあります。閑静な住宅街に位置し、落ち着いた環境で生活できます。男子と女子はエリアごとに分かれており、居室は2名1室です。



地域拠点

地域拠点では、地域の課題や最先端技術に触れながら、社会とつながる探究を行います。

※ 3カ月滞在する各地域拠点には、学習の拠点となる教室や寮を設置する予定です。海外拠点では、提携先の学校の寮を利用する予定です。また、拠点や滞在期間によっては、ホテルや旅館を利用する場合があります。なお、寮費・食費などの費用は、拠点によって異なります。



徳島拠点

徳島拠点は、渦潮で有名な鳴門市にあります。四国の玄関口でもある鳴門市では、スポーツや文化活動、商店街活性化などをテーマに探究活動を行います。教室は商店街近くを予定。寮は徳島県鳴門総合運動公園近くにあります。野球場や陸上競技場、体育館などが整備されており、寮から教室までは自転車で約15分の予定です。



けいはんな学研都市拠点

けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市）は、京都・大阪・奈良にまたがる日本有数の研究拠点です。教室や寮は周辺エリアに設置する予定です。研究機関や企業と関わりながら、人工知能やロボティクスなど最先端の技術を学び、探究活動に取り組みます。

Daily schedule

ドルトンX学園での1日

授業で学び、地域や社会で実践し、寮で仲間と語り合う。学びと生活がつながるドルトンX学園での1日をご紹介します。

※ 掲載している内容は一例です。授業内容や現地実践プロジェクトの内容、教室・寮の環境などは学年や拠点によって異なります。



1年生・3年生

岩手県にある一関キャンパスと東京キャンパスの2カ所にそれぞれ1学期ずつ滞在します。



2年生

地域拠点の中から数カ所を選び、約3カ月ごとに移動しながら学びます。午前中は授業、午後は現地実践プロジェクトに取り組みます。

詳しくは、P14-15へ

1年生 一関キャンパス

07:00 起床・朝食



08:00 寮から一関キャンパスへ

スクールバスで約5分です。広い空と緑豊かな田園風景に囲まれた環境の中で、1日の学びが始まります。



08:30 授業

国語や数学などの授業があります。東京キャンパスとオンラインでつながり、場所を越えて学び合います。



12:00 昼休み

今日は一緒に数学の授業を受けたクラスメイトと昼食を食べます。



13:00 授業

大型電子黒板を使い、東京キャンパスにいるクラスメイトと一緒に学びます。

16:00 放課後

体育館でハウスメンバーとバレーボールを楽しみ、リフレッシュします。

18:00 寮に戻る／夕食

夕食は寮の食堂で仲間と食べたり、自分の部屋でゆっくり過ごしながら食べたりします。

22:00 就寝

部屋のバスルームをルームメイトと交代で利用します。

2年生 徳島拠点

07:00



起床・朝食

3DKの居室で2〜3人のルームメートとともに生活します。朝は一緒に朝食を食べます。

08:00 寮から教室へ



08:30 授業

東京キャンパスにいる先生とオンラインでつながり、授業を受けます。



12:00 昼休み

午後は商店街で活動するため、商店街にあるお店でクラスメイトと一緒に昼食を食べます。



13:00 現地実践プロジェクト

鳴門市の商店街活性化について、市役所や商店街の方々にヒアリングを行います。現場で得た気づきや課題を持ち帰り、クラスメイトと今後の活動や解決策を検討します。



18:00 寮に戻る／夕食

自転車で寮へ戻ります。夕食は寮の食堂や自分の部屋でルームメートと食べます。

22:00 就寝

翌日の現地実践プロジェクトの準備をします。

3年生 東京キャンパス

07:00 起床・朝食

08:00 寮から教室へ



寮から徒歩約3分の教室へ向かいます。教室は自然豊かなNTT中央研修センタ内にあります。



08:30 授業

アサインメントを活用し、先生に相談や質問をしながら、進路の実現に向けた準備をします。

12:00 昼休み

寮に戻り、共同食堂で昼食を食べます。



13:00 授業

これまでの学習内容を振り返りながら、苦手な分野を確認し、重点的に復習します。

16:00 放課後

総合型選抜を受験する予定のため、志望理由書をブラッシュアップします。



18:00 寮に戻る／夕食

共同食堂でハウスメンバーと夕食をとります。進路について相談したり、お互いの目標を語り合ったりします。

22:00 就寝

翌日のアサインメントで使用するテキストや参考書を準備します。

入試・学費

基本情報

設置者	学校法人河合塾学園　理事長　河合英樹
学校種別	私立　広域通信制高校（通学区域47都道府県）
定員	450名（1学年150名）

2027年度入試情報 ※ 認可申請中のため、正式な生徒募集要項は認可後にご案内いたします。

探究コース
探究を軸に、国内外の地域で実践的に学びを深めるコースです。授業は主に日本語で行います。

グローバルコース
主に英語で授業を行うミネルバ・バカロレアプログラムと国際Ａレベルの2つのプログラムがあります。

探究コース（抜粋）

種類	特色入試 【単願】	推薦入試 【単願／併願】	一般入試I 【2科（英語資格）型】	一般入試II 【面接型】
募集人数	30名（両コース計）	50名（両コース計）	50名（両コース計）	若干名（両コース計）
出願資格	次の要件のいずれかに該当する者 1. 2027年3月までに中学校卒業見込みの者、または中学校を卒業した者 2. 日本国内の外国人学校または日本国内のインターナショナルスクールにおいて、9年の課程を2027年3月に修了見込みの者、または修了した者 3. 上記（1）、（2）と同等の公的資格を有すると本校が認めた者			
提出書類	● 調査書 ● 志望理由書	● 調査書 ● 志望理由書 ● 推薦書	● 調査書 ● 志望理由書 ● 英語外部試験のスコアレポート等 ※英語外部試験（基準以上）加点あり	● 調査書 ● 志望理由書 ● 課題作文
試験内容	グループワーク 書類審査	面接 書類審査	試験（数学、国語） 書類審査	面接、課題作文 書類審査
試験会場	グループワーク試験 （一関・東京・大阪）	オンライン面接	オンライン試験 （数学、国語）	オンライン面接
試験日	2026年12月12日	2027年1月22日	2027年2月11日	2027年3月20日

グローバルコース（抜粋）

種類	特色入試 【単願】	推薦入試 【単願／併願】	一般入試I 【2科（英語資格）型】	一般入試II 【面接型】
募集人数	30名（両コース計）	50名（両コース計）	50名（両コース計）	若干名（両コース計）
出願資格	次の要件のいずれかに該当する者 1.2027年3月までに中学校卒業見込みの者、または中学校を卒業した者 2. 日本国内の外国人学校または日本国内のインターナショナルスクールにおいて、9年の課程を2027年3月に修了見込みの者、または修了した者 3. 上記（1）、（2）と同等の公的資格を有すると本校が認めた者 上記とは別に必須の要件 【ミネルバ・バカロレア プログラム】 実用英語技能検定2級以上、TOEFL iBT 42以上、TOEIC L&R 550以上、IELTS 4.0以上のいずれかを取得していること（出願時の2年前以内に受験したもの）。 【国際Ａレベル プログラム】 実用英語技能検定準1級以上、TOEFL iBT 72以上、TOEIC L&R 785以上、IELTS 5.5以上のいずれかを取得していること（出願時の2年前以内に受験したもの）。			
提出書類	【共通】 ● 調査書 ● 志望理由書（英語で作成） ● 英語外部試験のスコアレポート等	【共通】 ● 調査書 ● 志望理由書（英語で作成） ● 推薦書（日本語又は英語） ● 英語外部試験のスコアレポート等	【共通】 ● 調査書 ● 志望理由書（英語で作成） ● 英語外部試験のスコアレポート等	【共通】 ● 調査書 ● 志望理由書（英語で作成） ● 課題作文（日本語） ● 英語外部試験のスコアレポート等
試験内容	グループワーク 書類審査	面接 書類審査	試験（数学、国語） 書類審査	面接、課題作文 書類審査
試験会場	グループワーク試験 （東京会場）	オンライン面接 （日本語・英語）	オンライン試験 （数学、国語）	オンライン面接 （日本語・英語）
試験日	2026年12月12日	2027年1月22日	2027年2月11日	2027年3月20日

※ 推薦入試には、専願・併願それぞれの評点（内申点）基準があります。　※ 帰国生入試も実施します。詳細は、本校Webサイトをご覧ください。
※ すべての入試方式で、探究コースとグローバルコースの併願が可能です。　※ 生徒募集要項は本校Webサイトよりダウンロードできます。

学費・費用

学費	**年間132万円** ※ 就学支援金により、実質負担額は軽減される予定です。 ※ 授業料・施設設備費・教育充実費を含みます。教材費は別途必要です。 ※ グローバルコースの場合は、国際カリキュラム費50万円と教材費・試験料をご負担いただきます。
寮費	**年間110～130万円程度** ※国内の地域拠点により異なります。 ※家賃・管理費・光熱費を含みます。食費（年額約50～60万円）は別途必要です。 ※移動・交通費は自己負担となります。
奨学金	**優秀奨学金（給付型）** **地域探究奨学金（給付型）**

よくあるご質問

新しい学びだからこその疑問や不安に、
しっかりお答えします。

他のQ&AやドルトンX学園に関する情報は、本校Webサイトをご確認ください。

Q. なぜ通信制高校なのですか？

A. 2年次に国内外のさまざまな地域拠点に滞在し、午前中は授業、午後は探究活動や現地実践プロジェクトに取り組みます。地域や国を越えて学ぶ環境を実現するために、通信制高校の仕組みを活用しています。

Q. なぜ全寮制なのですか？

A. 本校では、他者と協働しながら新たな価値を生み出す力を育てたいと考えています。その土台となるのが日々の寮生活です。基本的に通学ではなく寮生活をします。仲間との共同生活を通して、自律心や協働する力、挑戦し続ける力を育みます。



Q. なぜ国内外を移動しながら、探究的な活動を行うのですか？

A. 本校は、生徒が自ら変数となり、社会に新たな価値を生み出す存在になってほしいと考えています。そのためには、実際に現地で生活し、人と協働しながら地域のリアルな課題に向き合い、多様な価値観の中で挑戦を重ねることが大切だと考えています。こうした学びを実現するために、国内外に多様な拠点を設けています。

Q. ドルトンX学園が考える探究とはなんですか？

A. 自分が知りたいテーマについてWebや本で調べて、その内容を発表するという探究活動も意味があると考えています。さらに本校は、実際に地域や社会に出て、現地で生活し、多様な人々と関わりながら、リアルな課題に向き合うことを大切にしています。五感を使って本質に触れ、自分の常識や価値観が揺さぶられる経験の中で問いを深め、仲間や地域の方々と協働しながら新たな価値を生み出していきます。挑戦と失敗を繰り返しながら、自ら考え行動する力を育むこと。それが、ドルトンX学園が考える探究です。



Q. 探究学習に力を入れるとありますが、教科学力は身につきますか？

A. 探究活動を行うためにも、教科学力は重要だと考えています。本校では、通信制高校でありながら、オンラインだけでなく対面でも授業を行い、ICTを活用しながら基礎学力の定着を図ります。また、探究活動を通して学びの目的や必要性を実感することで、生徒自身が主体的に学ぶ意欲を高めていきます。なお、姉妹校であるドルトン東京学園では、非認知能力だけでなく教科学力の伸長も確認されています。

Q. 探究コースとグローバルコースの違いは何ですか？

A. 探究コースは、国内外の地域課題に向き合いながら自ら問いを立て、社会とつながる探究活動を深めるコースです。授業は主に日本語です。グローバルコースは、社会課題の解決に挑む力を育む「ミネルバ・バカロレア」と、専門分野を深く学び海外大学進学につなげる「国際Aレベル」の2つのプログラムを設置します。授業は主に英語です。

Q. 通信制高校ですが、オンライン中心ですか？

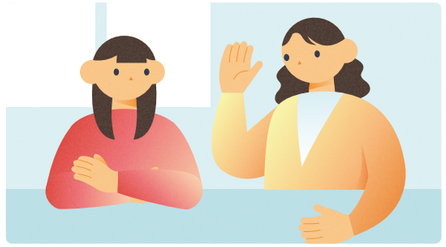
A. オンラインだけで学ぶ学校ではありません。1年次と3年次は、一関キャンパスまたは東京キャンパスで学び、対面授業も行います。特に東京キャンパスでは、対面授業の割合が多くなる予定です。2年次は地域拠点で、午前中はオンラインを活用しながら学び、午後は現地実践プロジェクトに取り組みます。

Q. 自宅から授業を受けることはできますか？

A. 本校は通信制高校ですが、全寮制の学校です。1年次と3年次は、一関キャンパスと東京キャンパスに1学期ずつ滞在し、2年次は地域拠点の寮に1拠点あたり約3カ月滞在して学ぶ予定です。そのため、授業は自宅ではなく、一関キャンパスや東京キャンパス、各地域拠点から受講します。

Q. 寮にはどのようなスタッフがいますか？

A. 一関キャンパスや東京キャンパスをはじめ、約3カ月滞在する寮には、ボーディング・コーディネーターが常駐する予定です。日々の相談や生活支援に加え、寮での仲間づくりのため、イベントの企画なども生徒とともに行い、学びと成長につながる共同生活を支えます。



Q. 寮での食事や通学はどのようになりますか？

A. 各寮では、食堂（共同食堂を含む）を設置し、食事を提供する予定です。週末には、生徒が自炊に挑戦したり、寮内でイベントを企画して仲間と食事を楽しんだりする機会もあります。寮から教室までの移動手段は拠点によって異なります。一関キャンパスはスクールバス約5分、東京キャンパスは徒歩約3分、徳島キャンパスは自転車で約15分の予定です。日々の生活も学びの一部と考えています。

Q. どのような進路を想定していますか？また、河合塾グループのサポートはありますか？

A. 本校では、2年次の現地実践プロジェクトをはじめとする探究活動を活かし、総合型選抜や学校推薦型選抜による大学進学を想定しています。また、一般選抜による大学進学や、グローバルコースでの学びを活かした海外大学進学も視野に入れています。進路サポートは学校のほか、河合塾グループの強みを活かし、情報提供や進路アドバイス、関連講座の提供（予定）などを通して、生徒一人ひとりの進路実現をサポートします。



Q. 学費や寮費はどのくらいかかりますか？

A. 探究コースの学費（授業料・施設設備費・教育充実費を含む。教材費は別途）は年間132万円です。グローバルコースの学費は年間182万円（国際カリキュラム費50万円）と教材費・試験料を予定しています。本校は就学支援金の対象校であり、ご家庭の収入に応じて学費負担が軽減されます。寮費は滞在する拠点によって異なりますが、年間110万～130万円程度を予定しています。寮費には、家賃・管理費・光熱費を含みます。寮費のほか、食費をご負担いただきます。なお、入学金は25万円を予定しています。

※記載の金額は2027年度開校に向けた現時点での見込みであり、今後変更となる場合があります。

Q. 奨学金はありますか？

A. はい。本校では、探究活動への挑戦を支援するため、寮費や交通費の一部に充当できる「地域探究奨学金（給付型）」と、入学試験の結果などを踏まえて給付する「優秀奨学金」を予定しています。対象人数や給付額などの詳細は、秋頃に本校Webサイトなどで公表する予定です。

ドルトンX学園
高等学校

2027年4月開校予定 (認可申請中)